

2024 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術研究科

【研究代表者氏名】：吉田敏

【研究代表者氏名フリガナ】：ヨシダサトシ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・産業技術研究科、三好きよみ、教授
- ・産業技術研究科、河西、助教

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・なし

【研究課題名】：産業振興に資する研究仕組みづくり ―創造プロセスの分析による創り方のメカニズムの解明―

【研究実績の概要（800～1000 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・国内の企業における、製品を企画し、設計し、生産し、販売促進していく行為の流れに関し、製品ごとに精査し、その特性を理解していくことを目指したものである。

・具体的には、4 社の国内企業に協力して頂き、それぞれの具体的な製品に基づく製品創造の流れを追うように調査し、考察を行っていったものである。この4社は、それぞれの製品領域で国内におけるリーディングカンパニーの位置づけとなる企業である。（2社は来年度まで継続する方向となっている。）

・具体的には、製品企画、製品設計、製品生産、販売促進の各プロセスにおけるキーマンの方にヒヤリングを繰り返し、実際に行われてきた判断や活動の内容を理解していったものとなっている。

特に、これまで殆ど実施されてこなかった、複数の学術領域の考え方の融合を進めることに勤めながら分析を進めた。また、コンピテンシーについて、現状の再整理をしている例が少なく、コンピテンシートラップについても概念だけが確立されたに過ぎないといえるため、具体的に各担当者に質問しながら議論を試みたものである。また、各組織の製品開発に関する独自性を把握するのに、アーキテクチャ概念、設計情報創造プロセス、コンピテンシートラップ、発生機能などの複数の学術領域の考え方を駆使しながら、基盤的な議論を深めることに勤めたものである。結果として、本研究によって引き出された学術的な内容として、下記のような要点をまとめることが出来る。

・これまでのものづくりにおいて高いパフォーマンスを誇る国内の組織について、コンピテンシーの固定化が起こっている可能性があり、出来るだけ早めにコンピテンシートラップに関する議論が必要であること。

・製品開発のプロセスの基盤的な流れに沿って、各組織の特性を整理したところ、つくり手視点での判断に偏っている面が重なっており、使い手視点の導入の高い必要性が理解できた。

・つくり手視点に偏ったことにより、製品開発の本来目的である社会の中での価値創造についてが薄められている傾向が求められた。人工物である製品を創る基盤的な目的は、「誰かが何らかの要望を持っており、それを実現させること」であることが考えられる。なぜなら、誰も何も望んでいない人工物を創ることは、明らかに不自然であるからである。この点（「誰のためか」「どのような要望のため

か」)に比べられない形で、製品が企画され、設計され、生産されている面が多く見受けられることについて、迅速な見直しが必要であることが理解できた。

これらの内容については、学術による社会貢献に資する社会実装の実現を目指すものであるという考え方にに基づき、できるだけプレゼンテーションと議論の形で、協力頂いた各企業にフィードバックしたものととなっている。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

・なし

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

- ・吉田敏、建築領域における機能発注に関する一考察、本学紀要、巻 18, p. 132-135, 2025.
- ・吉田敏、紫原まりえ、建築計画における求められる要求条件の継時的変化に関する一考察 一事務所建築計画における施主側の産業領域特性の影響一、設計工学（査読中）

【作品等】

・各企業への PPT ファイルによるプレゼンテーション

【科学研究費助成事業への応募状況、採択状況】

・なし

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

・共同研究は複数推進。（研究費は頂いておりません）

【受賞等】

・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

・国土交通省、関東地方整備局営繕事務所、総合評価審査部会にて、本知見を紹介。

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日)

・なし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額(円))

- ・吉田敏、産業技術研究科、35 万円
- ・三好きよみ、産業技術研究科、20 万円
- ・河西大介、産業技術研究科、20 万円